

二月二十八日(火)

平成二十九年度 金沢学院大学 入学試験問題（一般入試Ⅱ期）

国語

(注意事項)

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから7ページまであります。

第3問・第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰つてもよいですが、コピーして配布・使用するのは法律で禁じられています。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、10と表示のある問い合わせに対し

④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

第1問 次の文章は、内田樹たつる「反知性主義者たちの肖像」の一節である。これを読んで、後の問い合わせ（問1～7）に答えよ。

反知性主義者たちにおいては時間が流れない。それは言い換えると、「いま、ここ、私」しかないとことである。反知性主義者たちが例外なく^①カジヨウに論争的であるのは、「いま、ここ、目の前にいる相手」を知識や情報や推論の鮮やかさによって「威圧すること」に彼らが熱中しているからである。彼らはそれにしか興味がない。

（ a ）、彼らは少し時間をかけて調べれば簡単にばれる嘘うそをつき、根拠に乏しいデータや一義的な解釈になじまない事例を自説のために駆使することを厭わない。これは自分の仕事を他者との「協働」の一部であると考える人は決してすることのないふるまいである。

私はこれを「エンドユーザー・シップ」というふうに呼んでいる。自分の知的努力を享受するのは自分ひとりである。自分の努力がもたらした成果は自分が使い切る。誰にも分与しない、^②ゾウヨもしない。そう考える人のことを私は「エンドユーザー」と呼ぶ。

これは大学で卒論指導をしているときに学生たちに毎年伝えたことである。私はこんなふうにオリエンテーションのときに話した。

諸君にはこれから卒業論文というものを書いてもらう。これは君たちがこれまで書いてきた「レポート」とは性質が違うものである。「レポート」の場合、君たちは自分がどれほど勉強したか、どれほど出席して講義をノートしたかを、教師ひとりに^③センイツ的にアピールすれば済む。「レポート」はふつう教師ひとりしか読まない。だから、たとえそこに嘘を書いても、読んでもいない本を読んだことにして、ネットからコピーした文章を切り貼りしても、教師ひとりがそれを見落とせば、諸君は高い評点をもらえる可能性がある。そういう「レポート」は評点をもらつたらその使命を終え、誰にも読まれることなく、そのまま退蔵され、やがて捨てられる。それがどれほど不出来でも、どれほど誤謬や推論上のミスがあつても、それで困るものはどこにもいない。

卒論はそれとは違う。卒論は君たちのほとんどにとって生涯にただ一度だけ書く「学術論文」である。それは潜在的には「万人」が読者であるということを意味している。教師ひとりが読むわけではない。だから、仮にデータの数値が間違っていたり、引用文献の書名が間違っていたり、事実誤認があつたり、論理的に筋道が通らないことが書かれていた場合、仮に教師が読み落としても、他の誰かから指摘される可能性がある。実際に、うちのゼミ生の卒論をネットで公開したとき、自著からの「盗用」に気づいて指摘してきた人がいた。その学生はまさか盗用した

本人が自分の論文を見ることになるとは思つていなかつたのだろう。

(b)、論文の読者が「万人」であるということは書き手にそれなりの緊張感を求める。けれども、それは必ずしもストレスフルな緊張感には限られない。諸君には「君たちと同じテーマで卒論を書くことになつた、何年か先の内田ゼミの後輩」を想定読者に論文を書いて欲しい。それならどう書いていいかわかるはずだ。

「X ような」査定的なまなざしを意識して文章を書くことがいつもよいこととは限らない。たいていの場合、査読者に「自分の論文がどれほどの評点を得るのか」怯えながら書くよりも、自分の後輩を想定読者にして、彼女たちが「自分の論文からどれほどの利益と愉悦を得るか」を想像しながら書く方がずっと生産的だ。

そう考えれば、どう書けばよいかはわかるだろう。君たち自身がこのテーマで卒論を書こうと決めたとき、「() いう先行研究があつたらいいな」ということを漠然と思い描いたはずだ。だつたら、それをそのまま後輩のために書くようにすればいい。論理的な記述を心がけるのも、引用に正確を期すのも、データや史料の恣意的解釈を^④ジセイするのも、それは君たちの書いた「先行研究」を後輩たちがその上に立つことのできる「肩」にするためだ。君たちが読みやすくて、論理的で、データが豊富で、信頼性の高い研究論文を書き残せば、それは「パブリック・ドメイン」として多くの後続研究者に繰り返し利用されることになる。学術研究では「被言及回数・被引用回数」がその論文のもつ影響力の尺度として用いられるけれど、それは言い換えれば、その研究の「社会性・公共性」が高いということだ。

君たちがこれから書く論文の価値を判定するのはゼミの指導教師である私ではない。これから君たちの論文を読むことになる「まだ存在していない読者たち」である。その人たちのために書かなければならない。(a) 「レポート」の場合、どれほどひどいものを書いても、どれほど引用のしかたがずさんでも、データの転記ミスがあつても、それを読んで実害をこうむる読者は（絶望的な気分になる教師の他には）誰もいない。でも、(e) 「論文」の場合はそうではない。もし、君たちが引用出典のページ数を間違えたり、書名を誤って表記していたら、後輩たちは典拠を探しあぐねて図書館で何時間もうろうろしなければならないかも知れない。論理的に記述されていなければ、いつたい何を言いたいのか知るために繰り返し同じ頁をめくらなければならないかも知れない。論文の質がよいか悪いか、それから影響を受けるのは、まだ見ぬ読者たちである。君たちが質のよい論文を書けば、それによつて受益するのは、まだ見ぬ読者たちである。君たちはその人たちに向けて「よいパスを出す」ことを期待されている。論文において君たちはエンドユーザーではなく、Y なのである。

(ウ) おおよそそのような話を私は卒論ゼミの最初の時間に学生たちに話してきた。易しい言葉づかいではあるけれど、私なりに「知性的」であるとはどういうことか、「科学的」であるとはどういうことかを学生に説き聞かせてきたつもりである。それは最終的には「まだ見ぬ読者たち」との協働の営みをどれほど生き生きと想像できるかにかかっている。

反知性的なふるまいは「狭さ」を特徴とする。それは上に書いたとおりである。彼らは「いま、ここで、目の前にいる人たちを威圧すること（黙らせること、従わせること）」を当面の目標にしている。それ以外には目的がない。その場での相対的優位の確保、それが彼らの求めるもののすべてである。ほんとうにそうなのだ。彼らには「当面」しかない。彼らは時間が不可逆的なしかたで流れ、「いま、ここ」で真実とされていることが虚偽に転じたり、彼らが断定した言明の誤りが^⑤バクロされることを望まない。それくらいなら、時間が止まった方がましだと思うのである。この「反時間」という構えのうちに反知性主義の本質は凝集する。

(『日本の反知性主義』による。一部改変。)

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は、 1 5。

① カジヨウ 1

① 地方の議会にチンジヨウする。 2

④ 会社の利益のジョウヨを蓄積する。 3

② 河川の汚水をジョウカする。 4

⑤ 他人に自分の権利をジョウトする。 5

② ゾウヨ 2

① 現代社会のジツゾウを探る。 3

④ 国の将来のためにゾウゼイする。 4

② 卒業の記念品をゾウテイする。 5

③ 新しい競技場をケンゾウする。 6

③ センイツ □ 3

- ① 自分だけの仕事にセンネンする。
④ センメイに記憶している思い出。

④ ジセイ □ 4

- ① 故郷の父母に会いにキセイする。
④ 国会で法律をセイティした。

⑤ バクロ □ 5

- ① 政治家がワイロを受け取る。
④ 熱いフロに我慢して入る。

問2 空欄（ a ）と（ b ）には同じ接続詞が入る。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。
解答番号は □ 6 。

- ① たとえば ② ところで ③ また ④ しかし ⑤ だから

問3 空欄 □ X には、ある慣用句が入る。前後の文脈を踏まえて最も適当と思われる語句を、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は □ 7 。

- ① 揚げ足を取る ② 眼光紙背に徹す
③ 重箱の隅を突く ④ 齒牙にも掛けない ⑤ 豆腐の角に頭をぶつける

センサイな技巧を駆使した工芸品。

② 流行の病にカンゼンしてしまう。
⑤ 武力で他国をセンリョウする。

③ 文学のテキストをセイドクする。

② 大会の開会式でセンセイする。
⑤ 彼はセイジツな人柄の男だ。

④ ジセイ □ 4

- ① 故郷の父母に会いにキセイする。
④ 国会で法律をセイティした。

⑤ バクロ □ 5

- ① 政治家がワイロを受け取る。
④ 熱いフロに我慢して入る。

③ 仏壇にコウロを置く。

② まるでメイロのような道。

- ⑤ 彼は私をロコツに非難した。

問4 傍線部（ア）「レポート」と（イ）「論文」とあるが、両者の違いを、筆者はどのように考へてゐるか。本文の文脈を踏まえた上で、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 8。

① 「レポート」は誤謬やミス、コピーや盗用が多少あつても構わないが、「論文」は学術論文なので、引用や典拠の表記などの誤謬やミスは絶対に許されないものである。

② 「レポート」は講義に出席していれば高い評点をもらえる可能性があるが、「論文」は査読者から誤りを指摘される可能性があり、その評価はストレスフルで厳しい。

③ 「レポート」は自分がどれほど勉強したかをまとめたものであり、「論文」は論理的で、データが豊富で、信頼性の高いことが最優先である。

④ 「レポート」はふつう教師ひとりしか読まないが、「論文」はまだ見ぬ読者たち、後続研究者や「万人」を想定して書かれなければならない。

⑤ 「レポート」は担当の教師を絶望的な気分にさせるが、「論文」では、教師は後続研究者のひとりとして多くの利益と愉悦を必ず得ることができる。

問5 本文の空欄 Y に入る最も適当と思われる語句を、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 9。

① アタッカー ② ディフェンダー ③ ドリブラー ④ パッサー ⑤ レシーバー

問6 傍線部（ウ）「おおよそそのような話を私は卒論ゼミの最初の時間に学生たちに話してきた」とあるが、どうして筆者はこの本文の中で、卒論

ゼミで学生たちに伝えてきた話を引用したのか。その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

□ 10 □

- ① 卒論ゼミの学生たちに話してきた「レポート」と「論文」の違いは、大学や研究機関以外の一般の人々には意外に知られていない事柄であるから。

- ② 卒論は学術論文としてまだ見ぬ読者たちとの協働の営みであることを確認することによって、反知性主義者のエンドユーザー・シップや反時間性を批判することになるから。

- ③ 卒論ゼミの学生たちに「君たちと同じテーマで卒論を書く」となった、何年か先の筆者のゼミの後輩にも誇れるような、学術論文としての卒論を書いてもらえるように願っているから。

- ④ 「知性的」・「科学的」であるとはどういうことかを学生に説き聞かせてきたのと同じように、反知性主義者にも「知性的」・「科学的」であることを要請しているから。

- ⑤ 卒論ゼミのオリエンテーションのときに学生たちに話してきた学術研究の「社会性・公共性」は、反知性主義者の反時間性と共通する要素があるから。

問7 次の①～⑤のそれぞれの文について、筆者の述べる「反知性主義者」の特徴やふるまいに当てはまるものに①、当てはまらないものに②を

マークせよ。解答番号は

□ 11 □ 15

- ① 何よりも「当面」やその場の相対的優位の確保を目標とする。

- ② 自分の仕事や成果を自分が享受するのではなく、他者との「協働」の一部であると考える。

- ③ 知識や情報や推論の鮮やかさによって「いま、ここで、目の前にいる相手を威圧する」とに熱中する。

- ④ 時間が不可逆的なしかたで流れるのを望まず、時間の流れを押しとどめようとする。

- ⑤ 長い時間の流れの中におのれを位置づけるために、想像力を駆使する。

□ 15 □ 14 □ 13 □ 12 □ 11

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

「私」は、小説家である。思いもかけず仕事がはかどって、余分なお金を手にしたが使うあてはない。急に思い立つて、新聞で見た美術展覧会にでかける。そして、もしその展覧会で自分が買えるような気にいった作品があればありがたい、という気になつてゐる。ちょうどその日は、「私」の三十一歳の誕生日なのであつた。

さて展覧会場でさまざまな絵を見ているうちに私はたつた一つ、気に入った絵を見つけた。小さなスケッチだ。それはラプラードという人の手になつたもので「ユー島」という画題であつた。どんな画家だか私は知らなかつたが、この画家の絵は水彩と油彩と合して十二三はあつたろう。水彩は油彩よりも前の室にあつたが、その水彩を見た時から、ちょっと私の心にふれた。手腕のある人というよりは心持のある画家らしいと私は感じた。それから見まわつて来ると私が目をとめたのはこの「ユー島」であつた。そういう画題だが、私には島の風景も何も描いて無い——寧ろ「旅愁」と言つた方がよくはないとと思える。事実、この茶っぽい黄色の画面には景色より部屋の壁の方がよけいに描かれてあつた。そうしてその壁のまんなかの海に開かれた窓をとおして何だかぼんやりと舟をつないだ水際やらその遠方に樹か建物だかそんなものがあつた。このとおり取り留めのない構図ではあつたし、それに部屋の隅にかかつっていたのだから、恐らくあの会場を見た多くの人はそれを覚えてはいまい。一たいその画家が地味などころへ、就中、その絵が一番くすんでいた。それだのに今までいろいろの絵を味わいながら見ていた私の目は、「ユー島」の前まで来ると、たとえば知り合いの顔を遠くから見かけでもしたような気持で思わず瞳を引き入れられた。そうして（ア）私の瞳に触れたそのものはその瞬間、画ではなくつてやつぱりなつかしく相対した一つの瞳であつたような気がする。それは海岸の小ぼけな宿屋の一室へ疲れた体を座らせた旅人が窓外を見た時の瞳である。その旅人の瞳を通して私もまた「ユー島」を見た。太陽のツワライライトでないならば、靈のツワライライトであろう。もし空が曇つていなければなら心が旅愁で曇つてゐるのであろう。絵はうすれた光のなかでぼやけている。色も形も（イ）朴訥（おもかげ）ではあるが、その詩情のために絵は豊かである。油絵で描かれた東洋の文人画の佛（おもかげ）である。ラプラードという人の作は、見てゆくとどれもこれもそんな気持が溢れていた。私はふとラプラードの画を欲しいと思つた。ただその絵は私が持つてゐるだけでは金が足りなかつた。尤もそれに足すぐらいの金は私に出来ない事はない。ただ未だ書くあてもない原稿で金を借りなきやならない……

私はラプラードの諸作品の前を過ぎ去つて、外の人々の（ウ）作品を目で味わいながら歩いたが心の一隅ではやつぱり「ュー島」を買う事を考えづけていた。

私は場内にある喫茶店のなかへ這入はいつて足を休めていた。するとそこへ這入つてくるなり、私の名を呼んだのはもう五六年前会わない古い友達であつた。画家で一ころはよほど仲よくしていたのが何となく疎遠になつてしまつた間柄であった。しかし、むかしの友情はさすがに私たちを一つのテーブルへ案内した。

「ラプラードというのがあるね。ありやどんな人だい？」

「ふむ、君には気に入つたかな。なるほど或る心持はあるね。やはりインティミストというのだろうよ」「インティミスト？——何ということだい？」

「そうさ。親密という字から来ているのじやないか？ 神秘ともちがうし——字引を引いて、「らんよ。——ルドンなどがその代表者だろう」「へえ？」私にはそんな通なことはわからない。ただこの友達のいうのを謹聴するだけである。

彼は言つた。「ラプラードか。悪くはない。が、ヴランシクの写実的な底力はない。ドランの重厚な真実も、ルドンの深奥な幻想もない……」

「さあ、そりや……」と私は彼の言葉を遮つて置いてからウェイトレスに勘定を命じながら言いつづけた。「そりやそうかも知れぬ。ただ僕はあの幽情がいいのだ。それに苦もなくやりっぱなしに描き上げてあるところがね——（エ）氣韻がある。俗でない」「ふん」

彼は一応私に同意したらしくもあつた。そうでないようにもあつた。そして私たちがその喫茶場を出た時に、彼は私の言葉を実験して見ようとも言うように、彼自身で先に立つてラプラードの絵の方へ歩を運び返した。

彼はしばらく佇んでたたずラプラードを鑑賞したようであつたが言つた——
「（オ）いかん。いかん。」

「？」私は彼の顔を見入つた。

「いや。絵は悪くはないさ。だが、君がこの絵を手に入れたいというのはいかん。こりや君、そつくり君の世界じゃないか。自分で自分を見惚れ

るようなものだ——己惚鏡うねぼれだぜ。君は何故、ヴラマンクのあの……」と言ひながら彼は、直ぐ近いところにあつた一つの絵を目顔で示しながら「あの静物などを欲しいと言わないのだ。自然の持つてゐる根強い優しさ懷かしさがかかるやき出でているじやないか。それに手ごろの大きさではあり……」

「ただ、高い」

「それにもう売れて居る。……僕は必ずしも買うという意味で言うのではないのさ。鑑賞の目的からね。……もしヴラマンクでは甘さが足りなけりや、※フランドランはどうだい。見た？ 麦稈細工のような綺麗きれいな色だが卑しくはない。何よりな事には、お祭りの日の小娘見たようにほがらかな晴れやかな気持がうれしいじやないか……」彼は雄弁に、そうして親切に語りつづけた。彼は私に自分とは反対な、自分を徒らに慰めるというよりは自分を養うようなものを薦めようというのであつた。そうしてそれは確かに悪い忠言ではない。彼は五六年もまるで逢いもしないくせに、私の作品でも読むのか私をよくしっていて、私の安易な消極的な心持を見てとつてしまつてゐる。(カ)それがちよつと私の心を刺した。

「ヴラマンクに、フランドラン！？ 似ても似つかないが、その一人を僕に薦める君の意見は僕にも解るよ」(キ)私は寧ろ少しばかりやけになつて言った——尤も人ごみであつたから囁くような声ではあつたが「一そ、それならデエフェイはどうだ。あのギラギラする海や競馬場の画家は。ありや君、生きている刻々が無限の楽しみであるような、(ク)闊達けつたくな絢爛けんらんな、そうして傍目もふらない急進的な、男性的な……」

私がそんなことを言い出した時である。私たちは不意に声をかけられて、ふりかえると、それは私たちの或る先輩の一家族がやはり見物に来ていて、私たちを見つけたのであつた。

(佐藤春夫『厭世家の誕生日』による。一部改変。)

(注) ラプラード・ピエール・ラプラード(一八七五～一九三一)フランスの画家。温和な色彩を用いて室内やパリの街頭風景などを描いた。

ツワイライト・トワイライトのこと。日の出前や日没後の薄明、薄暮を指す。

ルドン・オディロン・ルドン(一八四〇～一九一六)フランスの画家。幻想の世界を描いた。黒を基調とした前半生の作風から、五十歳を境に鮮やかな色彩を使った絵を描いた。

ヴラマンク・モーリス・ド・ヴラマンク(一八七六～一九五八)フランスの画家。激しい筆触と強烈な色彩とを用いたが、のち暗い色調に転じた。風景画が多い。

(注) ドラン・アンドレ・ドラン（一八八〇～一九五四）フランスの画家。風景、人物、静物など様々な画題を多様な作風で描いた。

フラン・ドラン・イッポリイト・フラン・ドラン（一八〇九～一八六四）フランスの画家。宗教画を多く制作した。

デュフイ・ラウル・デュフイ（一八七七～一九五三）フランスの画家。明るい色彩と軽快な筆さばきによつて色彩の魔術師と呼ばれた。

問1 傍線部（ア）「私の瞳に触れたそのものはその瞬間、画ではなくつてやつぱりなつかしく相対した一つの瞳であつたような気がする」とあるが、

これはどのようにことを述べたものか。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「ユー島」の絵は、知り合いと向き合つているような親しみやすさがあるということ。
- ② 「ユー島」の絵は、なぜかなつかしいひとを思い出させる力があるということ。
- ③ 「ユー島」の絵には、昔どこかで見たことのあるような既視感があるということ。
- ④ 「ユー島」の絵に描かれた風景は、実際のユー島には存在しないものであるということ。
- ⑤ 「ユー島」の絵は、その風景を眺めている画家の心を身近に感じさせるものであるということ。

問2 傍線部（イ）「朴訥」、（エ）「氣韻」、（ク）「闊達」の意味として、最も適当なものを、それぞれ次の各群の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

解答番号は

(イ) 朴訥

- ① 野性的で精力的
- ② こまやかで優しい
- ③ 鮮やかで劇的
- ④ 単純で飾り気がない
- ⑤ 凝つっていて巧み

(エ) 気韻 18

① 良心

② 意欲

③ 技術

④ 才能

⑤ 品格

(ク) 閑達 19

① 細かいことにこだわらない

② 難しいことも樂々とこなす

③ 脂ぎつてぎらぎらした

④ 健康で清潔感のある

⑤ 派手でよく目立つている

問3 傍線部(ウ)「作品を目で味わいながら」とあるが、これはどういうことか。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。

解答番号は 20。

- ① 作品を一通り鑑賞しながら
- ② 作品のテーマだけを確認しながら
- ③ 作品を丹念に分析しながら
- ④ 作品を描いた作者を想像しながら
- ⑤ 作品に黙つて向き合いながら

問4 傍線部(オ)「いかん。いかん。」とあるが、「私」の友達がそのように言つた理由は何か。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。

解答番号は 21。

- ① ラプラードの絵についての「私」の解釈が、自分の解釈と真っ向から対立するものであつたから。
- ② ラプラードの絵を好む「私」に、自らを成長させ伸ばしていくとする気概の欠如を感じたから。
- ③ ラプラードの絵を買いたいという「私」に、経済的にも教養的にも背伸びしている危うさを感じたから。
- ④ ラプラードの絵を語る「私」に鋭い批評眼を感じ、いずれライバルになるのではないかと不安を感じたから。
- ⑤ ラプラードの絵に、「私」を社会から孤立させる危険な思想が表われているのを見て取ったから。

問5 傍線部(カ)「それがちょっと私の心を刺した」とあるが、どういうことを述べたものか。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。

解答番号は 22。

- ① 自分と疎遠になつたひとから、変わらぬ熱い友情を示されて感動したということ。
- ② 自分と段々疎遠になつたひとから、いまだに友人ぶつて鬱陶しい忠告をされたということ。うつとう
- ③ 自分としばらく会わなかつたひとから、予想以上に手厳しい批判を受けてしまつたということ。
- ④ 自分のことをよく理解しているひとから、自分の痛いところを的確に突かれたということ。
- ⑤ 自分がまだ友人だと思っているひとから、思いがけず冷たい言葉を投げかけられたということ。

問6 傍線部(キ)「私は寧ろ少しばかりやけになつて言った」とあるが、その結果、「私」はどのようなことを言ったのか。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 23。

- ① わざと友人が嫌つてゐる画家の名前を挙げた。
- ② わざと友人が大好きな画家の名前を挙げた。
- ③ わざと今の自分の好みと正反対の画家の名前を挙げた。
- ④ わざと友人も自分も評価していない画家の名前を挙げた。
- ⑤ わざと友人が心配する、自分が好きな画家の名前を挙げた。

※次の設問から、受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

○健康栄養学科・スポーツ健康学科・経営情報学科・文学科（英米文学専攻・心理学専攻）・芸術学科の受験者

↓第3問へ

○文学科（日本文学専攻・歴史学専攻）の受験者

↓第4問【古文】へ

第3問 次の問いに答えよ。

(A) 次の①～⑤のうち、漢字表記がすべて正しいものには①、誤りが含まれているものには②をマークせよ。

解答番号は

24
↓
 28

- ① 苦渋の決断をした。
- ② 危機一発で逃げのびた。
- ③ 強行採決に反発の声があがる。
- ④ 内功的な性格の少年。
- ⑤ 国敗れて山河あり。

28 27 26 25 24

(B) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

このごろ、日本語が乱れている、敬語が目茶苦茶だ、外来語のカタカナが多すぎる、若者の変な造語がさっぱりわからない、日本語はこの先どうなるんだと、よく話題になる。たしかにそういう気がしないでもない。だが、本当にそうだろうか。

ここで、正しい言葉とは一体何だろうと、もう一度考えてみる必要がある。もし正しい言葉というものが、一つだけはつきり定まっているのであれば、たしかに、皆がそれだけを使えば用は足りることになる。

たとえば水を飲みたいということを言いたいとき、意味が伝わりさえすればいいのであれば、「水が飲みたい」という言い方が一つあれば充分だ。

(①)

人間の生活や心は限りなく豊かだ。そこで言葉にもひねりをかけようとする。「ああ、水が飲みてえな」とか「喉がからっからだ」とか、なぜか一本調子の言ひ方から外してみたくなる。
はず
のど

とくに、若者は言葉の冒険をすることで自己主張をしたり、目立ちたがる。(②)

若者ばかりでない。職人さんなども、自分たちの職業の特色を表わすために、言葉にひねりをかけることがままある。

正しい言葉というものは、たしかにあるはずだ。(③)だから、逆に活きてる言葉は、正しい言葉の外側にあるともいえる。

その造ったおもしろい言葉、ひねった言葉、隠語などが活きているということは、逆にいうと、ひねっているということを、皆が意識しているわけだ。(④)

したがって、私は日本語の行く末について、それほど心配していない。いろいろと若者が造語する。ハイテイーンやローテイーンが携帯電話やメールでカチヤカチヤやっている。(⑤)

しかし、逆にいえば、正しい言い方というものが意識されているから、それができるわけだ。それがなければ、言葉は通じなくなってしまう。だから、活きてる言葉、ビビッドな生の言葉というのは、遠心力と求心力がはたらいてる。その両端の間を揺れ動いている。緊張感で人にアピールしているわけである。

(栗田勇『日本文化のキーワード 七つのやまと言葉』による。一部改変。)

問 次のA～Eの文は本文中の空欄①～⑤のどこに入れるのが適當か。それぞれ番号で答えよ。

解答番号は A = 、 B = 、 C = 、 D = 、 E = 。

- A それはやはり言葉遊びをして、言葉の感覺を磨いてる、あるいは自分の個性を主張しているのだともいえる。
- B また、自分たちの遊び心や、グループの仲間意識などを満足させようとする。
- C つまり、正しい言葉のあり方を、じつは知っているということになる。
- D しかし、実際に生活のなかで言葉が活きているのは、ひねりをかけて、そこからちょっと外した姿である。
- E しかし、現実はどうだろうか。そんな簡単なものではない。

第4問【古文】次の文章を読んで、後の問い（問1～3）に答えよ。

今は昔、春つかた、日うららかなりけるに、六十ばかりの女のありけるが、虫うち取りてゐたりけるに、庭に雀のしありきけるを、童部わらはべ、石を取りて打ちたれば、あたりて、腰をうち折られにけり。羽をふためかして A **まど** ふほどに、鳥のかけりありきければ、「あな心憂う、鳥取りてん」とて、この女、急ぎ取りて、息しかけなどして、物食はす。小桶こをけに入れて、夜はをさむ。明くれば、米食はせ、B **あかがね**、薬にこそげて、食はせなどすれば、子ども、孫など、「あはれ、女房 C **とじ** は、老いて、雀飼はるる」とて、憎み笑ふ。

かくて、(エ)月つきごろよくつくるへば、(エ)やうやう躍りありく。雀の心にも、かく養ひ生けたるを、いみじく嬉し嬉しと思ひけり。(ウ)あからさまにものへ行くとても、人に「(ノ)の雀見よ。物食はせよ」など言ひおきければ、子、孫など、「あはれ、なんてふ、雀飼はるる」とて、憎み笑へども、「され、(エ)いとほしければ」とて、飼ふほどに、飛ぶほどになりにけり。「今は、よも鳥に取られ D 」とて、外に出でて、手に据 E で、「飛びやする、見ん」とて、ささげたれば、ふらふらと飛びて去ぬ。女、多くの月つきごろ日ひごろ、暮るればをさめ、明くれば物食はせならひて、「あはれや、飛びて去ぬるよ。また来やすると見ん」など、(オ)つれづれに思ひて言ひければ、人に笑はれけり。

(『宇治拾遺物語』による)

問1 A **まど** C の語にあてる漢字として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は A = **24**、 B = **25**、 C = **26**。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|------|------|------|
| A | ① 混 | ② 違 | ③ 亂 | ④ 劣 | ⑤ 惑 |
| B | ① 金 | ② 銀 | ③ 銅 | ④ 鋼 | ⑤ 針 |
| C | ① 奴 | ② 妃 | ③ 刀自 | ④ 童子 | ⑤ 杜氏 |

問2 傍線部（ア）「月ごろ」、（イ）「やうやう」、（ウ）「あからさまに」、（エ）「いとほしければ」、（オ）「つれづれに」の解釈として最も適当なもの

を、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は（ア）＝27、（イ）＝28、（ウ）＝29、（エ）＝30、（オ）＝31。

（ア）月ごろ

（イ）先月来

（ウ）毎月毎月

（エ）数ヶ月の間

（オ）一ヶ月間

（ア）今月ごろ

（イ）やうやう

（ウ）あからさまに

（エ）しだいに

（オ）かるうじて

（ア）わざかに

（イ）精一杯

（ウ）どうにかこうにか

（エ）

（ア）公然と

（イ）顔を赤くして

（ウ）脇目もふらず

（エ）陽気に

（ア）ちょっと

（ア）いとほしければ

（イ）たいそう欲しいので

（ウ）たいへん好きなので

（エ）美しいので

（オ）かわいそうなので

（ア）みじめなので

（オ）つれづれに

（ア）残念に

（イ）手持ち無沙汰に

（ウ）気が重いと

（エ）うんざりと

（オ）心の底から

問
3

空欄 D E に入る語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は D = 32, E = 33。

- E D
- ① ① う じ
② ② え ず
③ ③ へ なむ
④ ④ ん ばや

- ⑤ ⑤ り む

